二〇一七年　四月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

好ましいことばのみを語れ。そのことばは人々に歓び迎えられる。つねに好ましいことばのみを語っているならば、それによってひとの悪意を身に受けることがない。

『ウダーナヴァルガ』

新年度を迎え、新入生にとっては新たな環境での学校生活が始まります。また、中高共に2年生、3年生にとっては、新たなクラスでの学校生活が始まります。そんな中で、今月のこの言葉を頭に入れて過ごしてください。

仏教では、人間の行いのことを「業〈ごう〉」といいます。そして、その業には三種類あり、それらを合わせて「三業〈さんごう〉」といいます。まずは「身業」で、身体での行為、次は「口業」で、私たちが発する言葉のこと、最後は「意業」で、心のはたらきのことです。

今月の言葉を「三業」に照らし合わせてみると、「口業」に当てはまります。家族をはじめ、クラスやクラブ活動などみなさんは多くの人との繋がりの中にいます。やはり、自分勝手で自己中心的な発言は慎むべきです。今月の言葉をしっかりと踏まえ、一度自分自身がどのような言葉を発しているか、あなたの「口業」を改めて見つめ直してみましょう。

今月の聖語

人の生を受くるは難く　やがて死すべきものの　今生命（いのち）あるは　有り難し

『法句経』

釈尊の教えに次のようなものがあります。

ある時釈尊は、大地の砂を手にすくい、弟子たちに次のように質問しました。「この手のひらの砂の数と大地の砂の数は、どちらが多いでしょう。」この問いに対し、弟子は答えました。「もちろん大地の砂の数の方が多いです。」すると釈尊は、静かにうなずかれて、「その通りです。この世の中に生きているものは大地の砂の数くらいたくさんいるけど、人間としていのちを恵まれるものは、手のひらの砂の数ほどわずかなものだよ。」と答えられました。

この世には多くの生物が生きており、その中で、今人間として生きていることの有り難さ、不思議さを改めて実感させられます。

数え切れないほどのご縁で人としてこの世に生まれ、そして限りある「いのち」を今こうして生きています。普段過ごしている一日が、実は大変尊いものだと再認識させられる言葉だと思います。

合掌